

☆私の意見

## 夢のある地下鉄 絵になる町づくり

安好 丘

△神戸市交通局々長△



神戸市初の地下鉄がいよいよ三月一三日にスタートします。名谷・新長田間の西神線五・七キロです。

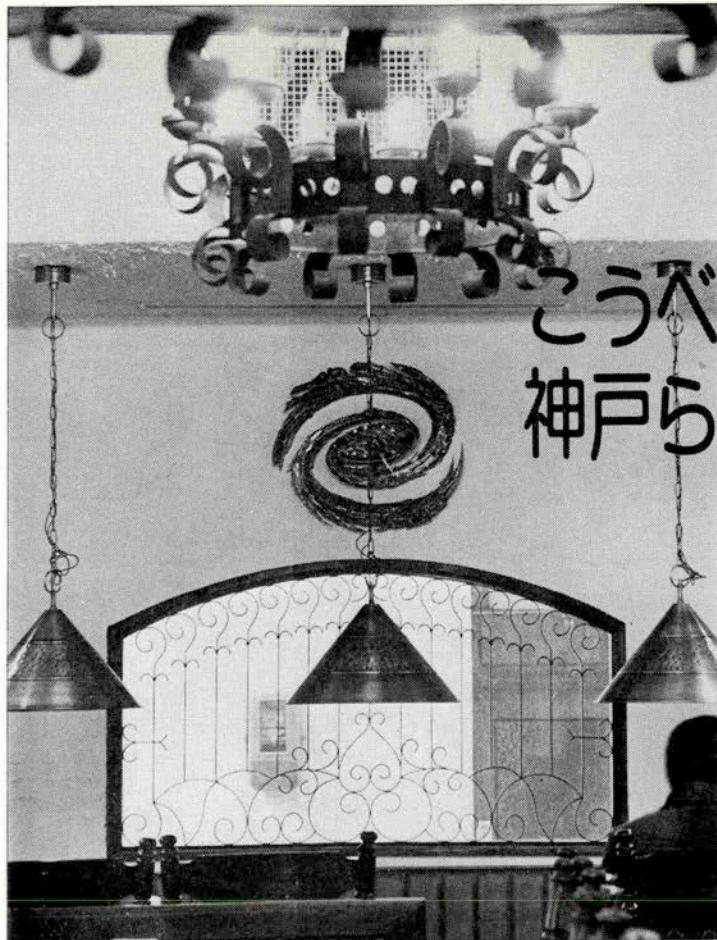
車両については車体はグリーンのツートンカラーでシートもグリーン。これは長年神戸市民に親しまれた市電のグリーンを復活したものです。冷暖房も完備されています。技術面では ATC（自動列車制御装置）、CTC（列車集中制御装置）を装備し、全国初の試みとして連続勾配を下る列車がブレーキ時に発生する電力を回生します。

駅の照明などに供給する省エネルギー化が行われています。それと四つの駅の個性化。駅は市民の出逢いの場であり、コミュニティ広場、公共広場ですからそれにふさわしいイメージが必要です。名谷駅は春に花の咲く木で法面をおおう「春の駅」、妙法寺駅は山小屋風で、秋に紅葉する木で法面を色どる「秋の駅」、板宿駅はプラットホームの壁を板の目模様にした「板の駅」、そして新長田駅は浜側に出来る新長田ビルの壁面と合わせて駅ビルにも鳩をデザインした「鳩の駅」となっています。

都市交通機関を装置として考えると大動脈は鉄道で大量・長距離輸送、中動脈はモノレールや新交通システムによる中量・中距離輸送、小動脈はバスになるのですがこれらが有機的に連携することが必要です。将来、大都市では大動脈は地下鉄、中動脈は中空、小動脈は地上というようになります。

私は常々「絵になる町づくり」ということを提唱しております。絵に画きたくなるような、今風にいえば、写真に撮りたくなるような町角がいたるところにあることです。都市交通についても常にこうした考えをもつております。都市景観を考慮した、乗って楽しく、見て美しいものであるべきだと思います。

今年、神戸市交通局は創立六十周年を迎えます。こそ、公共交通機関を企業的視点から都市的視点へと移し、都市交通問題を都市問題としてとらえる新しい視点、新しい価値観の必要なときだと思います。



コーヒーハウス「ハットドッグ」  
(生田区中山手通1丁目)

信頼される

**KOBE  
NIKKEN**

店舗装備のプロフェッショナル

(株) 神戸日建

神戸市葺合区御幸通3丁目2-20  
PHONE 078(251)3525(代)  
東京営業所 03(393)1577

# 隨想



え・山川 勝彦

としての義務と思えるくらい。  
白夜の印象？ 北極圏に入ったあたりで経験する白夜はロマンティックで美しいけれど、もつとずっと北までいくと真夜中にも太陽が真上でさんさんと輝き、二十四時間、昼間という感じ。その反面、冬は一日中まっ暗。日の出となると起き、日の入りと共に休むなんてゼイタクはそこでは許されない。



## 暖かい ノルウエーの旅

樋口 勝子  
（宣教師）

とつては毛皮のコートはごくあたり前）、暖かいブーツをはいて、防寒用の帽子に厚手の手袋をすれば万事OK、むしろ日本の冬の方が寒いと感じるくらい。

しかし夏の寒さ（？）には時折閉口させられた。むこうでの暮らし三年半、ノルウエー伝道会というキリスト教の団体の招きでいき、学んだり、働いたりの生活だったが、旅行が多く、最北の白夜が見えるあたりへも何度も行った。特に今年の夏、六月半ばから一ヶ月最北で働いたが、厚手のセーターをはなせなかつたし、屋内では暖房を使っていた。だから時折太陽が出、暖かい日があるとそれこそ寒さが苦になつたことはない。屋内の暖房設備は完備しているし暖かいコートを着て（年配の人には宣教師の

としての義務と思えるくらい。  
白夜の印象？ 北極圏に入ったあたりで経験する白夜はロマンティックで美しいけれど、もつとずっと北までいくと真夜中にも太陽が真上でさんさんと輝き、二十四時間、昼間という感じ。その反面、冬は一日中まっ暗。日の出となると起き、日の入りと共に休むなんてゼイタクはそこでは許されない。

気候ばかりか、生活の知恵、また楽しみ方も日本とはかなり違っている。何しろ日本とほぼ同面積の国で、ながら、人口わずか四百万足らず。大阪の人口を全国にばらまいたら出来上る国であるから、地方へいけば隣りの家まで車でいかねばならない。人口の多い国で育った私たちにはうらやましいと思うことが沢山あるけれど、その反対のことも沢山。例えば金と印刷物の高いこと。また都会の雰囲気の好きな人、元町やセンター街やさんちかをぶらつくのが好きだなんていう人には向かない国。四時か五時には店は皆閉まってしまうし、第一ぶらついて楽しめりなんて全然ない。そのかわりほとんどの家庭はゆつたりとした部屋が気持ちよくかざりつけてあり、お客様を迎えてコーヒーと手製のケーキで楽しむということは日常のこと。お客様を泊めるこ

とも慣れている。三年半の半分以上は旅に暮らしたけれど、ホテルに泊ったことはない。どこへ行つても帰る時にはゲストブックに何か書いてくださいと頼まれる。

お客様を迎える、もてなすことによつて自分たちが自分たちの家庭が祝福をうけるという思いは深くいきわたつていて。“受けるより与えることは幸いである”という聖書の言葉が生活の中に生きている清潔な素朴な国である。

## 焼き物と 思い出

吉田 泰巳

△嵯峨御流華道総司所理事▽

いつの頃からか、旅に出ると町の骨董屋をのぞくのが私の趣味になつた。骨董といつても私の興味を引くものは焼き物、しかも私の懐具合にあう安物に限られている。結婚してから三年目に入り、長男も昨年九月に生まれ母と夫婦、子供の四人で、泣いたり笑つたりまあ世間なみに無事年月を過ごしているが、いま頃になつて思い出すのが、女房に最初にふくれられ

た時のこと。

私は元来野次馬根性旺盛で、なんでも見なければ損やらなければ損と、本当に困った性格である。

今から考えるとたいへん可哀想なことをしたと反省もしているが、

九州に新婚旅行にいった時、ホテルに到着が夜の九時、朝の出発が七時、強行軍の連続でさすがの辛抱強い女房も四日目にはふくれつらになり、女のあつかいはたいへんむつかしいということをつくづく思い知られた。その時女房の反対を押し切つてのぞいた北九州

市で手に入れた絵唐津の壺は、手によるたびにその時のことを思い出させる私の大好きなつぼの一つである。

ともかく一つひとつものに思い出がある。韓国旅行をした時に手にいれた「茶入」「香合」にもそれぞれの思い出がこもる。今から約五年前、韓国最大の観光地慶州を訪れた時、骨董屋の前を通りかかると、店の中から声がかかつた。「お客様さん夏茶わんあるよ。

三島あるよ」茶道の世界において、韓国より渡つた物は古いもの

新しいものを問わず唐物として非常に珍重している。しかしそれは韓国では別の用途として使われてゐた物を日本人がその美しさを発見し、それを茶の道具として使つてゐるのである。しかしこの国で

「夏茶わん」、「三島」等、そんな呼び声を聞くとは想像をしていかつたのでたいへん驚いた。しかもその店では日本の茶道に関係のあるものには非常に高価な値段がつけられていて、なかなか堀り出しどのを見つけるのはむつかしいと思われた。ふと陳列のかたすみを見ると、私の目を引くものが二つあり、主人にこれはなにかと聞くと、一つは女人の化粧するときにつかうおしゃれいとき、もう一

つはようじ入れであるとの説明がかえってきた。これをお茶の道具に使えるということを主人は知らぬのか、たいへん安い値段がついていた。こうして手に入れたのが現在愛用している香合と茶入である。

旅の思い出はさまざまだが、その思い出をアルバムに写真を一枚一枚はるよう、焼き物を集め



韓国のつば売り荷車  
(筆者撮影)

ようになつてから旅の楽しさが倍増するようになったのも確かである。

ともかく焼き物には土の匂いがある。私はいはなにたずさわることから、植物とはきつてもきれない関係にあり、その植物を育てるのが土である。そしてまた日本の文化の基盤をなすものも土であるといつても過言ではなかろう。すべての人々の生活に、土は密着している。土くさのなくなりつある都会生活の中で、土くさを持つ焼き物を集め、その一つひとつのはい出にひそかな誇りを感じる今日この頃である。

## 「私の本」ができました

小山乃里子

（アナウンサー）

いつか読んだ、ボーボワールの本の中に、こんな一節があつた。「この世の中には、一生かかっても読み切れぬ程の本があるというのに、何故又一冊、その数の中に加えねばならないのだろう」

ちょうどその頃、何年に一度か私を襲つて来る、暗闇の中でもめつたやたらと出口を捜してもがいているような、深山に入りこみ、呼べど呼べど、返つて来るのはコダマだけだという時に感じる、恐

怖に近い孤独感とも言えるようないし、そんな仕事への虚しさに私はとらわれていた。

電波を相手の商売も、長く続ければ、そんな精神状態を上手く切り抜けるすべなど、いつのまにか身に付けるものだけれど、それでも時々、喋り散らされ、どこかへ消えてしまつた言葉に、たまらない、いとおしさを感じる事もある。女に出来る事といったら、子供を作る事位だ、と暴言した男がいたけれど、私にはそれらもないのだ。なんでもいい、私が造り上げました、といえるものが、無性に欲しかった。

詩集でも、エッセイでも、たとえそれぞれがどんな出来上りであろうと、本を一冊出してみよう、と思ったのは、そんな頃だった。けれど、私の乏しい本棚の本ですら、全部読んではいないのに、やつぱりそれは、大それた考えだよ。と心中でもう一人の私が笑う。電波を相手の商売が虚しいなんて、思い上りもはなはだし、と彼女はののしる。エッセイで



「結婚するバカしないバカ」

装幀 鶴居羊子

も、なんて簡単に言つてほしくはないね。あれは、最高の文章力を要求されるものなんだから。詩だって、学生時代にちょこちょこつと書いていただけじゃないの。よしな、よしな、ともう一人の私は、追求の手をゆるめようとはしない。十年早いよ、とまで言われて、私は決心をかなりにぶらせてしまつた。三年程前の事である。それがどこでどうなつたやら、いかにもかつこがいいけれど、実際に始めてみると、原稿用紙のます目を、一字一字埋めていく作業の、なんとしんどい、時間のかかるものであるか。一ヶ月に、一気にお枚書いたと思うと、次の月には、わずか二十枚、その次の月は十枚、予定枚数までは、実に遠い道のりで、途中何度も嫌になつて息抜きに麻雀をしたり、お酒を飲んだり、アメリカに行つたり。

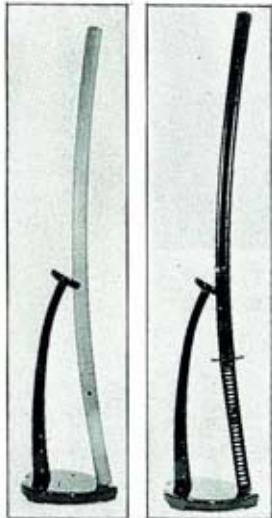
嗚呼!! それでも、ここに、こんな立派な本が（なに、立派なのは表紙だけ、だつて）出来たのでありますぞ。内容は、読んでの楽しみ。エッセイでもなく、小説でもなく、結婚に、まだ夢を持つているのやら、あきらめているのやら、とにかく「私の本」である事には、変りはないのです。



# 刀劍 古美術 書画 骨董

刀 拙つき

特別賞重刀剣認定其得  
無銘(文殊包次)  
長さ二尺八寸  
四〇〇円



鑑定 買入  
刀剣研磨その他工作  
一ヵ月仕上

是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地  
刀吉美骨董  
TEL078-351-0081

鍛えぬかれた  
じにせの味



## ゴーフル



ほろほろと軽い2枚の洋風  
せんべいに、バニラ、スト  
ロベリー、チョコレートの  
3色のクリームをはさんだ  
爽やかな風味——  
お子さまからお年寄りまで  
巾広く親しまれている  
鳳月堂の代表銘菓です。



神戸鳳月堂

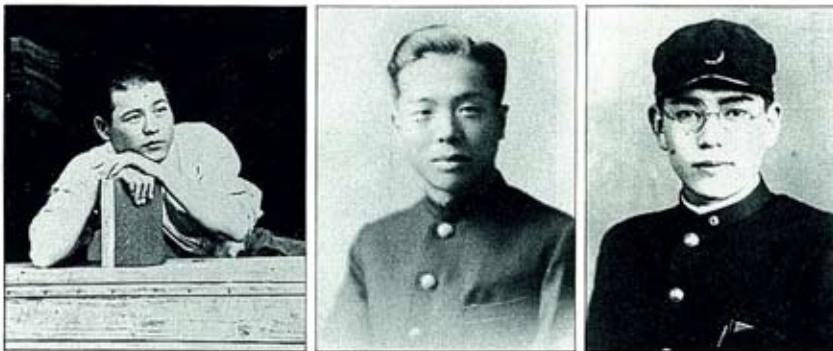
本社 神戸元町3丁目 078-391-2412

# 活動狂

原

清

△朝日放送社長▽



クリヤノフ・コジロフスキの筆名をもつ栗林紅路さん（左、昭和4年 筑山連隊にて）と、初めて会った時お互い紅顔少年で驚きあった宮森喜久二さん（中）と筆者（右）（ともに昭和2年頃）

流行歌の文句じやないが、活動写真が好きで好きで大好きで……という活動狂の青少年たちを生んだ神戸の源泉地は湊川新開地である。

もともと、この新開地は熊野から和田岬方面へ流れていた湊川を、西南へ付け替えて今的新湊川とし、旧湊川の廢川地を湊川新開地と命名。ここを福原遊廓につづく歓楽街にしたものだと聞いている。

大正時代、すでに市電の電車道から浜側には洋画封切館のキネマ俱楽部、朝日館、邦画の錦座、菊水館、二葉館、芝居の相生座、色物席の千代通座などがならび、市電から山側には聚楽館、松竹劇場、後には松竹座も加わった。相生座では新派悲劇や生きた大蛇を使う恐怖劇、それに当時流行の連鎖劇がかかり、舞台とスクリーンの連鎖演出が大好評で大衆を沸かせていた。

また相生座やキネマ俱楽部の近くには、当節はやりの勧工場式商店街があつて、大衆買物客で大賑わい、電停の場所で、調理場から流れ出すラードの油煙と人いきれがムンムンする中で、映画議論をよく闘わせたものである。

湊川新開地は当時、東京の浅草六区、大阪の道頓堀と競う映画・演劇街で、私たち活動狂はいささか気どつて「まい・おーると・しんかいち」と愛称した。ついでのことながら最近でもさんちかタウン、さんプラザ、トア・ロード、フラワ・ロード、そして The Kobecco などと同様、少々キザな呼び方が定着するのは、ミナト神戸ならではの市民性といつていいかも知れない。

さて、実は赤ん坊時代から幼稚園時代まで、私はこの湊川新開地の西隣りに当る兵庫の佐比江町に住んでいた。この町は、その当時ちょっとした商店街だった。私の家は茶屋隣りは地玉子屋、向いは医院、すじ向いは

瀬戸具屋、かまぼこ屋などがならんでいた。

夕方になると、ガス燈屋が小さな脚立をかついで走つて来て、軒先にあるガスの門燈に灯をつけて回つたころである。向いのお医者さんが仲々のハイカラさんで、夏の夜など近所の子供たちを集め、當時物珍しかつた極彩式の幻燈を見せてくれた。幻燈、今までうライド映写でそのタネ板（画像原板）は五センチ角くらいのガラス板に描かれた絵に色絵具で幼稚な着色をしただけのものだが、これがレンズで拡大されて白い裸に映し出されると異様な迫力があった。時あたかも日露戦争に大勝した軍国熱のほどほりがまださめやらぬころだけに「二〇三高地の激戦」など勇ましい場面が出ると、子供心にも興奮を感じ、思わず拍手喝采したものである。

幼稚園から帰ると祖母が私の手をひいて近くの湊川新開地筋へ散歩に連れてってくれた。軒をならべた活動写真館は、いずれも大きなベンキの絵看板と旗のぼりで人眼をひき、夜ともなれば各館とも不夜城のような電飾の中に看板のベンキ絵が生きもののように浮び出でていた。入口に近づくと、アーチ燈の映写機がジージーと音をたてながら悠々回転しているのが見え、その青白い光がたまらなく美しく見えた。このときの活動写真館の絵看板や夏の夜に観た極彩色幻燈画の強烈な印象が潛在意識となつて後年の私を活動狂に追い込んだに違いない、と私は今も信じている。

もつとも、私が活動狂になつたのは大正十年ごろだからそのころは住居は東神戸に移つていた。そして、そこで一人の活動狂に出会つたことが、私の活動狂への道を更に決定的にしたのである。

その人の名は宮森喜久二。かねてから映画同人雑誌や映画館のプログラム、キネマ旬報の寄稿欄などでお互いに名前だけは知り合つていたが会うのは初めての二人。双方ともひとつの活動狂を自認していただけに、顔を合わせてみてびっくりした。お互にまだ中学一年生だったからである。彼は関西学院中学部、私は甲陽中学の

まだ脚にゲートルを巻いて通学していたところである。

彼、宮森は映画雑誌の論文で見る限り、どうしても三十才以上の青年とふんでいた私の前に、いきなり丸顔の紅顔少年が現われ「ボク、宮森です」と名乗られたのだから驚いたのも当然である。「おれだって驚いたよ」と、その後毎日新聞記者となり北海道総局長、パレスサイド・ビル代表など歴任して今は悠々自適の宮森はつい最近語つてくれた。

同じ活動狂学生でも村上久雄（本名忠久）は、私たちより数年上級、関西学院英文科の学生だった。得意の英文学に物言わせて、映画の英語字幕の原語ニユアンスまで解説されることは如何せん、彼の映画批評や映画論が勝利を占めることが多かつた。彼は、今もなお関西アカデミー協会長老格として活躍している。

栗林紅路（本名幸二郎）酒も好きだが議論好きで、もうひとつペネームはクリヤノフ・コジロフスキーヒ名付けていたくらいたから左翼ばかりの映画理論も鋭かつた。

彼は徴兵検査で甲種合格、私たち活動狂一同の盛大な見送りを受けて篠山連隊に入営したが、その翌年秋のある早朝、ひょっこり私の家に訪ねてきた。見れば、まんじゅ笠に袈裟衣といいでたちである。なんだかソワソワしているので聞きだしたら、実はその前日、軍旗祭の仮装行列の折、そのまま脱走してきたのだという。そして仮装行列の衣裳での脱走はドイツ映画の筋書き通りやって成功したんだ、活動狂ならでは、と大得意なのである。

まことに芝居気たっぷり、稚氣愛すべき友だが、といって、そのまま脱走兵の彼をかくまえば大変なことになる。結局、彼に朝食をとらせ、おにぎり弁当を持たせて別れたのだが、その後支那事変、世界大戦、敗戦……と動乱の嵐の中を彼はどう潜り抜けてくれただろうか。

その後またたく間に巡り逢う機会のないまま今日に至つてゐる。

# 女学校の夜明け

高道基 △神戸女学院大学教授▽  
え・伊藤慶之助

神戸女学院では、五月二十二日を「創立者記念日」と呼んでいる。今年は雨天で中止されたが、例年この日は課業を休み、新入学生たちは貸切りバスを連ねて再度山修法ヶ原に眠る創立者タルカットの墓地を訪れる。ことにもつじの花の美しい季節である。墓前で小さな礼拝を守り、諏訪山をへて帰路につくのだが、新入生たちはこの日を境にしてはじめて「女学院生」としての落ちつきを示すものであるらしい。式後あらためて墓前に近づき、水をかけ花を横たえてじっと瞑目している学生の姿を見る時がある。創ったものがあり、創られてゆくものがある——当たり前のことのようだが、そのことにあらためて感懷を覚えるのもこの日の松声の下である。

帰路のバスは女学院発祥の地山本通りを過ぎるが、もちろん当時を偲ぶよすがはない。明治八年の十月、タルカット、ダッドレーの二女史と三十四名の学生により「神戸ホーム」と名付けられて開校された時、あたりは梅林と水田に囲まれた閑静な一画だったという。沖にうかぶ真帆片帆の影がながらに手にとるように数えられた、とこ

を訪れた一人の詩人は書いている。

しかし当時の世情を考えるならば、我々はほんやり詩情にひたってばかりはいられないようだ。

明治初年、イギリス水兵と岡山藩兵との衝突（神戸事件）の記憶がまだ生きしく、その後も住民と外人とのトラブルは頻発して県令の頭を悩ませていた。それはあなたがちに住民の排外感情からばかり出たものとは言えない。酩酊した外人水兵や不徳な商人たちによってひきおこされた事件も多かったのである。すでに横浜を中心に日本伝道の方策をたてていた外人宣教師たちにとって、神戸の外人モラルの低さはまるで「ソドムとゴモラ」のように思われたという。

「米国伝道会社」の神戸開教の決定には右のような事情も伏在していた。明治三年三月、最初のプロテスタン系宣教師、D・C・グリーンが横浜より神戸に移り、居留地の外人のための伝道を開始した。「神戸ステーション」と呼ばれたこの拠点に、ギューリック、デイビス、つづいてベリー、デイビスはことにエピソードに充ちた人物であ



神戸女学院の創立者  
ダッドレー女史(上)と  
タルカット女史



る。南北戦争のさい北軍大佐として勇戦中、重傷を負い、その志を海外伝道に向けたが日本語の修得にはことに難渋したらしい。一日「ニク」を注文して「ネコ」が連れてこられた時には戦慄したと書いている。剛毅な性格の持ち主で、馬にのつて六甲を越え有馬に遊ぶうち旧三田藩主九鬼隆義夫妻の知遇をうけた。この両者の交情が神戸女学院を生む一つの機縁となる。デイビスはのち、新島襄を助けて同志社の創業を助けるが、早くより教育に望みを托していたらしい。未だ禁教下の明治五年、当時の宇治野村に英語学校を創設、自らその校務を掌理した。新知識を求める青年たちで学校が次第に活況を示しはじめると共に、この事業に注目した米国伝道会は新たに二人の婦人宣教師の派遣を決定した。ミス・エライザ・タルカットとミス・ジュリア・ダッドレーである。

二人の独身女性の選定にあたっては選考委員た

た二人はサン・フランシスコを出航、二十六日の航海をへて神戸に到着した。共に本国において教師の経験をつみ、同じような伝道の心に溢れている。しかしひそかな不安もあつたに違いない。その彼女たちの目にうつった神戸の風景はマイルドであり、彼女らを好奇の目で迎える日本の少女たちは清潔で可愛いかつた。「少女たちの多くは、路上で見かける時、大変魅力的です」とタルカットはほっとしたように本国に書き送っている。

両女史の到着を誰よりも喜んだのは九鬼隆義であつたという。この開明的な旧藩主は、三田藩の子女の教育を二人に托した。花隈村にはじめ置かれた英語、唱歌の教授所は明治七年北長狭通の白洲退蔵方に移され、ここも狭隘となるに及んで独立の校舎建築のことが議にのぼつた。二女史を送つた米国婦人伝道会が拠金し、九鬼ら日本人有志が援助して木造二階建ての西洋館が諏訪山の緑を背景に誕生し、女学院の歴史はここから始まる。

タルカットは帯を太鼓に結んだ和装の少女たちに、まず「足を内輪にして歩かず、目はまっすぐ相手の目を見るように」と教えたという。伏目にするのが女性の美德と考えられた当時に、昂然と頭を上げて歩く生徒たちの姿は、神戸の人々を驚かせたに違いない。

ちの間に異論があつたという。二人ともいかにも柔軟に見えた。神戸からの報告は禁教下のきびしい条件に加えて、グリーンの日本語教師市川栄之助の投獄、獄死をつたえている。この女性に苛烈な試練の日々が耐えられるだろうか——。しかしそんな危惧を二人の熱情ははね返した。

り女あり。

## 内藤国雄

△将棋九段▽

「プロは体力、注意力、集中力が必要。だから、セックストレーニングがプロなんです。男は注意力散漫、持久力なしですからね」

## 石阪春生

△洋画家▽

「僕は酒も飲まんし、歌も歌わんし、なんでここにおるのか分らへんのですよ。ほんまに、分らんですなあ……」



石阪 春生さん



内藤 国雄さん

### ★酒を飲んだらエロ歌をうたう

内藤

歌うときは飲むのは十回に一回位ですね。一杯飲んで歌えば調子がいいというけど、歌わないからと

いうので酒飲んだら酔い方が違うんですね。飲んだらい声が出るといったって飲んで樂しくなって自然に歌う

のじやなく、歌うために飲むと酔い方が具合悪いです

よ。自分だけ酔っていると、なんば調子がいいたつてお

かしいですね。聴いている側にも飲んで貰わないかん。

松本 僕は普通の音楽会だったら絶対飲みませんね、一週間位は。だけど飲んで歌うのはものすごい好きです

わ。結局それは相手も調子を取つていかなあかんのでもうが。ただね、飲んで歌つたらあくる日のすごい疲れ

れます。僕ね、これは酒が悪いんかなと色々考えたんですけど、酒やなしに酒を飲むとき煙草を吸う、これが

悪いんですね。たとえばウイスキーならウイスキーだけ

を飲んで歌うのなら大丈夫なんですけどね。チャンポン

するとか、煙草を吸うとか、それからその中の空気が悪いですね。だけど自分でびっくりする位いい歌が歌え

るときがありますわ。お酒を飲んで歌うと声が出ると自分だけがそう思つているるかなと思たら、そやないわ。

飲んでいるときはやっぱりいい声が出ているわ。シビレながら歌うから。ある程度適量ですけどね。ジャズの人

が麻薬打ちながらやつたらいい演奏が出来るとか、ああいう要素がやっぱりある程度音楽にあると思いますね。

石阪 感情が高ぶるのがいいのじやないですか？

松本 ワーッと乗れるからね。普通、冷静に歌ついたら色々なことを考えるからね。

近衛 サミー・ディビス・ジュニアが必ず飲んで歌うでしょう。あれと同じですね。私は飲んだら、まあ、雰囲気

で歌うというところですね。何でも歌いますよ。もちろん「おゆき」も知りますよ。（笑）

内藤 宝塚は歌がうまくないといけないんでしょう？ええ、何もかも全部です。

●座談会

酒あり歌あ

松本 幸三

△声楽家▽

「女でなくなつた女とか、やっぱり年増がいいですねえ……。いわば板金加工みたいに、こうやって……」

近衛 真理

△テレビタレント▽

「宝塚では男性との接触がたとえ親でも禁じられていましたので二十歳頃までの私は、男には見向きもしなかつたんですよ」



松本 幸三さん



近衛 真理さん

内藤 まあ、容姿が第一だけれども（笑）歌と踊りが基

本になるわけでしょう。踊りで鍛えると足首は細いけど太ももは太くなるんですか？

松本 一べん見せて貰わなあかん。

石阪 ハ、ハ、ハ、……。

近衛 そんな、悪いわ。（笑）オ、ホ、ホ、ホ……。

松本 どーんと上へ乗られたからね。（注、劇団神戸のミュージカル「紫式部なんか怖くない」でのこと。念のため）

内藤 それですか……。（？）

松本 宝塚には独特の発声がありますね。みんなが同じようで。あれ、なんで似て来るのかなと思いますね。真理ちゃんは割りとオーソドックスですね。

近衛 シャンソン、クラシック、ジャズ、と全部やるんですね。

内藤 演歌はやらないのですか？

近衛 やらないです。ただ、民謡はやります。演歌だけないんです。結局、声から来るあれだと思うんです。

松本 コブシとか？

ええ。

石阪 あれは訓練したらかなり演歌になつて行くものなんですか？

内藤 なつて行くでしよう。

近衛 発声法でそうなりますね。

石阪 ああ、そうですか。そういう心構えとか、血みたいなどろつとしたものがあるでしょう。ああいうものがなかつたら演歌にならへんのかなと僕は思つたんですけど

内藤 演歌とか民謡いうのは日本人のものだから。

石阪 放つとつたつて出て来るんですか、訓練すれば。

内藤 出るんでしよう。

近衛 持つて生まれた声の質もありますし、きっと。

松本 僕らが演歌を歌えばやはり変な感じですね。日本人でありながら演歌を歌えないというのはおかしい話ですからお酒飲みながら、よく、お前は歌うたいだから歌

え歌え、といわれるんですが、そんなとき一番困るんですね。その場のムードから離れてしまうんですね。全然シラケてしまう。伴奏なかつたら歌いにくいし。西洋音楽は伴奏と歌で一つの音楽になつていてるからね。だから酒飲んで歌えいわれたらエロ歌を歌うことにしてるんです。（笑）

内藤 僕はやっぱり真理ちゃんの足を見せて貰いたいということと演歌を聴きたいな。

近衛 イヤア、そんなこと。悪いわあ。（と嬉しそう）

松本 綺麗な足ですよ。悪しからずいうて。（笑）太い

ようで細いね。鍛えられた足やから。

内藤 細いというのは上方だけそこらは見てないの

でしょう？

松本 いや、上も見ました。タイツで、バーツと、この

へんまで全部見ましたから。

内藤 活字にするときはタイツなしにしといて下さい。

近衛 （爆笑）すごい、わるい……。

### ★好色な目つきでチリ箱を見る？

近衛 内藤さんはどうして歌を始められたんですか。こうやつてはる（と、将棋の駒をつまむ格好をして）のが

……私、不思議で仕方ないんですけど。

内藤 みんな歌は好きでしょ。将棋は十歳からやけど歌は五歳から歌ってましてね。僕の五歳のときの戦争だけなわでして、防空壕のなかでいつも歌ってたんです。まだ、恐怖心がないからね。母親がおると恐くなってしまう。そこで歌うとエコーがきいてうまく聞こえるんですよ。ズーッと好きなんです。

松本 ものすごい美声ですね。テノールでしょ。内藤 でも酒と煙草が多いから段々と声が低くなるような気がしてね……。

内藤 ヘえ、セックスで快感を感じるところへんへ（とこれも額を押えて）ボーンと来るんですか。

松本 いやいや（笑）、高い声を出したときに何か恍惚とした気持ちになるんです。大体テノールは最後は一番高い音で終るんですが、そのときに何ともいえん気持ちになるんです。

近衛 歌を始められて心が広くなるというか、気持ちが違うでしょ。

石阪 将棋も冴えますか？

内藤 将棋の成績が悪いと歌がマイナスだというけど歌がマイナスぢゃない、スケジュールが悪いんだというんです。スケジュールがきついと歌であろうが、釣りであろうが、小説に凝ろうが何に凝ろうがダメですね。僕の場合は歌がものすごく好きだから強行スケジュールでやっているんですが、将棋ほど個人プレーではないんですね。一人で将棋の駒を動かすことを二十年間やって来たのが、それが今は自分が将棋の駒になつていて。将棋を始めてズーッと人と力を合わせてやることがないんです。負けたら自分の責任、勝つたら自分がいいだけで、十何時間、黙つて盤に向つてやつていてるでしょう。歌というものは正反対ですね。みんなと力を合わせたり、大勢の人の前に出たり。今まで経験がないだけに嬉しいですね。それに僕の場合、将棋があるから、いつでも歌をやめられるし、あとでいい想い出になるからということでやつてるんです。三橋美智也さんとテレビに出たし、三橋さんに民謡名曲五段を貰つたり、楽しかったですよ。

松本 将棋があつて、楽しみながら歌えるというのは最高だと思いますね。僕みたいに歌を専門にやるとそんな楽しいもんじやないです。

内藤 将棋をやつたらどうですか。（笑）

松本 将棋で売り出そ。（笑）たとえば、ホールで燕尾服を着てリサイタルをやつてるのはものすごくしんどいわけですわ。だけどね、飲みに行って歌つてくれいわれて、マイク持つてみんなが知つている歌を歌つたとき本

当に歌つているなあ……と感じたんですね。ああ、これが歌やなって……。だから、色んなボビューラーな歌を

歌うようにしたんですけどね。

**石阪** それに抵抗ある人もいるでしょうね。しかし、今までのアカデミシャンと違う考え方になつてええと思うしね。

**松本** 段々これからは音楽の方も変つて来ると思いますね。大きなホールに集めてリサイタルやるとかそんなんじやなしにサロン的なムードでワインでも飲みながら歌を聴いて貰うとかいう風に変つて来ると思いますわ。

**内藤** 歌をぶつ続けでやつたのは六時間位ですね。はしごをして最初の二、三軒は歌わなくって、途中、十時位から歌い出して、店が看板になつて、知り合いのマンションに行つて午前四時まで。酒の記録は夏に撮ったお酒のコマーシャル。あれで二升飲みましたね。ちょうど、一升ビンが二本出たんです。三林京子さんが一合五勺位飲みました。終つてから、もう一軒案内せえいって、そこで二、三本倒していますからね。正味二升ですね。普通の店の徳利だと二十七、八本になりますね。

もう一本コマーシャルに出ているんですが、あれで、内藤さんはどうも色っぽい、ドンファンのような目つきをするといわれるんです。おかしいな、僕は目つきが悪くないし、なんでやといったら、ローラ・ボーとやって、ローラさん、どうもどうもというんですが、そのローラさんを見る目つきが好色だというわけです。ところがあれは合成フィルムでローラ・ボーと会つてないんです。知らんのですよ。撮影現場にはそれらしい女性はおらんのです。ローラさんおらへんやないか、本番になつたら来るんか、いうたら、いや、今日は来ません、ローラさんいうて、色っぽいわけがない。（爆笑）お酒のコマーシャルの方は本ものですよ。こうやつて僕は肩たたかれどるるもの。それで家内が機嫌悪いんです。あの

人は慣れ慣れしいいうて。（笑）

**近衛** 私はお酒は何でもたいていただく方ですけど。

宝塚にいると段々飲むようになるね。入つたら歓迎会とかいわれて、みんなで旅行へ行つて上級生からあんたも飲みなさいとつがれて、もうこんなになって、それで飲むようになりました。

★内藤は額を押さえて……生んでもいいです

**内藤** 僕は気が強くてひかえ目という女性が好きやね。

おゆきは、少しおくれて歩く癖それを叱つて抱きよせた」という日蔭の女でしょ。ものすごい大人しい女性ですが自分が表へ出たらいかんというのでグッと抑える。

芯が強いんだけども抑えるという女性はいいですなあ。

**松本** 僕はやっぱり不倫の恋やね。（出たツとの声あり）一生結ばれない人がええねえ……。

**内藤** それは戸籍上結ばれなくて、実質は結ばれて。

**松本** それはもう結ばれすぎて……。（笑）それで、ズ

ソト結婚にあこがれてはいるが、日蔭の身で辛抱する。だからグチをこぼす女性いうのも好きやね。完全に男のエゴですか。

**内藤** グチはこぼしても家庭をこわしては困るわけね。（笑）

**松本** だけど女性から見たら家庭を大事にしていて、かつそういうバイタリティーがあるという男性にあこがれるのと違うかな。

**石阪** おこられるで、そんなこといよつたら。（笑）  
**松本** それで遊びじゃないよ。お互に真剣に愛し合つてゐる。

**近衛** （しみじみと）いいですねえ……。

**松本** そんなん夢や。へ、へ、へ……。仲々現実は厳しかけれど。

**近衛** そうでもなさそ……。先生は。先生はやさしいか

**松本** 僕はね、おゆきさんというのを知つてゐるんですわ。

僕はそこへよっしゃう飲みに行つてたの。その人は僕が好きで、僕もその人が好きやつた。先生の歌が流行り出して、その人、ものすごくよくなつたんや。歌のおゆきに近づきよるわけや。(笑) ああいう名前を使えば、おゆきとかゆき子とかいう名前の女性はみんな夢があるんですよね。みんな自分がモデルになつているのかなどいう気持ちに段々なつて来るんやね。おゆきばっかり集つて「おゆきクラブ」いうのが出来るんと違う。(笑) 内藤 「紅白歌合戦に出場させる会」のときに子供を抱いた女性がおつたらしいですね。僕がエレベーター乗るときその人が走つて來たのでサインしたらしいんですね。パーイーには出でおらなかつたんですよ。そんなこと忘れていたんですけど、あとで、将棋の後援会のおばあちゃんがいいにくそうに、おゆきさんのモデルはどんななつとるんですかと聞くので、いや、別にないですね、といつたら、僕があの詞をつくつたんかというわけですね。いや、そうじやないですよといたら、実は、そこに子供さんかかえた奥さんがおつたと。おたくさんどうしたんですか、今日は内藤さんのパーイーに来られたんですかいうたら、いや、私は出ません、私がおゆきなんですか……いうてね……。子供をかかえていながら、そのおばあさんはつきり僕が生ましてやね、その人が日蔭の身でジッと耐えとると。(笑) それで僕がエレベーター乗つたらビュツと走つて來て、僕がサンしたでしょ。あつ、やっぱり、あれ……つて噂しどつたというんですよ。そんなんが出て來るんですよ。(笑) ときどき……。(笑)

ある雑誌で対談をやつたんですよ。それが女の話専門のものすごいやわらかい雑誌なんですね。その対談のなかで相手が「内藤さん、『おゆき』って歌が流行つていますが、現在、そういう女性がおるんですか」。そして、「もし彼女が子供むいうたら、どうしますか」というんですよ。僕は、

内藤 僕はプロは力やと思うね。将棋の場合も十何時間盤を前にして座つて、持久力、集中力いうか、まず力でしよう。歌でも声がええとか何とかよりも体力がないところがつとまらないですよ。集中力と持久力……。だからセックスでは女性がプロである。男性に比べてはるかに持久力と集中力においてすぐれている。男性は集中力散漫だし、持久力はないし、そして、強そうなことばかりいうし。アマチュアな証拠です。女性は強そうな話をしないでしょ。

松本 機能が違いますからね、やっぱり。(笑) 内藤 だから酒とセックスについていうと、あの人は酒が強いとすぐいりますでしょう。これは勝負ごとじやないから強い弱いというのはおかしい。好きだ、といわんといかんわけですね。

松本 強い弱いはないけれど、上手下手いうのはあるんじゃないですか。

子供を生んで恐いと思うのなら初めからやめとけといつたんですよ。相手があなたの子供を欲しいというのは本当に惚れとる証拠だから生んでも構わない。それがいやなら最初からやめとくことだとね。その通り書きやいいわけですね。ところが、内藤は額を押さえて考え込んだつて。(笑) そして「生んでも構いません」ってね。

(笑) テボテボ使うたりするから、すごう時間があるわけですよ。「その雑誌、家へ送つて來たのだから、家内、機嫌が悪うてね……。(笑) 往生したよ。(笑)

石阪 活字はかなわんねえ。

松本 いや、今日も活字ですよ。(笑)

内藤 今日のは大丈夫やね。(笑) 生んでも構わんいうたのは事実なんですね。前後がうまくつくてあつて、考え込んで、生んでも工工ですなんて、そりや、おかしいですよ。(笑) そんな記事が出たから僕は「紅白」を落とされたんじやないかと思うんですよ。(一同爆笑)

★女がいなけりや歌わない

近衛 出たあ……。(笑)

内藤 上手下手になると私は静かにしどこ。独壇場と違

う。

松本 私はふられそうになつたら泣くんです。(笑) 泣こ思たらいつでも涙が出るんですね。嬉しいときでもボロ、と泣けるんですわ。それがこの頃ちょっとバレて来ましてね。(笑) よう泣くというのが通つてもてね。(笑) 泣きに来るいうて有名になつてしまもてね。

内藤 今日は涙出ないけど、昨日、いっぱい泣いたん、いわれたりね。(笑)

石阪 歌を歌っているので高ぶり方が上手なんですね。

松本 自分自身に感激していくわけですね。歌うときは自分が一番うまいと思うもんね。

石阪 女性に向つても同じことなんですか。

松本 絶対欲しいと思つたら、やっぱり……。

石阪 (感心したように) 見事なものや……。アツ、アツ、アツ、アツ(と笑う)。歌を歌う人はものすごいナルシストやね。絵画きのナルシスどころやないね。

内藤 自己暗示というのが非常に大事ですね。将棋の場合でも自信をもつて、オレの読み筋に間違いはないんだと考えれば二百手でも三百手でもどんどん先へ行くけれど、これでえんやろかと思つたら二十手位でまた後戻りするでしよう。歌でもこれでえんやろかと思わない。私の歌はうまいんで、睡眠不足だけどこの位でえんなどいう自己暗示ですね。

石阪 僕なんか歌を歌うと照れくささが先に来よるからね。

近衛 私も踊りが好きなのは自分を虐めるからですね。虐めるつて、叱られても叱られても、こう、やつて行くつていう……。踊つてしまつたと思うことがあります

が、やっぱり、こうやつているときは陶酔していますね。それでないと、バランスくずれる、くずれる思うとくずれますからね。

内藤 基礎を全部やつて、それで仕事をやつているとき

は楽しいな、楽しいなつていう自己暗示ね。僕らでいうと、将棋させる幸せ感をもてば病気にならないですね。

今、歌を歌つても歌が好きだから楽しいな、いつか一ペんフルバンドでやつてみたいと思ってた、それが実現して、ああ、幸せやな、と思うことで病気にならないんですね。セックスにしても自己暗示やからね。私はどうしてこんなに好きなんだろうと……。(笑) ちよつとあわてて) 僕は、僕は経験がないけれども。(笑) どうして好きなんやろ、困つたものやなと思えばしっかりするわけですよ。

松本 ただ、僕の経験からいえば、本当に自分が好きな人とは最初からうまく行かないね。感情が先に走つてしまつて身体がついて行かない。

内藤 カンジョウいうてお金の方やつたりして。(笑)

松本 僕は女性がいなかつたら歌なんか歌わないのでね。やつぱり自分の好きな人には、音楽会に来て貰いたいし。女性に認められたいという気持ちが強いですね。

内藤 女性がおるから頑張るんですね。男は。そりや、女性がいなけりや淋しいですよ。

松本 だから家庭用と絶えず夢を追える女性と二人いかつたらダメやと思うね。

石阪 男いうものははずつと幻想を追いかけているんやね。

内藤 だから男性五、六人で楽しんで女性が一人ちよつとおつてくれだけでものすごい楽し

いね。

石阪 そうそう、そういうことですね。



(神戸竹葉亭にて)

ヘルマーク  
清酒ハクツル

ヘルマーク運動協賛会社

サイドボードに  
新しい清酒  
さけ  
くつろぎのひととき  
冷でよし 煙でよし……

吟醸清酒エクセレントハクツル  
1,600円

幸せを上ぶみんなのお酒  
品質を誇る  
清酒 白鶴

神戸・瀬 白鶴酒造株式会社

# 辛口の先輩です。

まず、この辛口金盃は、辛口のなかの草分けです。  
糖類は一切使っておりません。  
中味になお一層の吟味を加え  
味、コク、香りに、特徴を持たせた  
男性的な灘酒です。是非、御愛用下さい。

からくち

# 金盃

清酒

本社 東京支店  
〒104-6571  
神戸市灘区大石東町6丁目3番1号  
東京都中央区新川1丁目14番5号

姉妹品  
二級からくち  
もあります



キラッキラッとファッショナブルにデビューです。  
中身の良さ、ボトルの良さで人気抜群のデカンタに  
星座、星、レディと魅力あふれる新製品が加わりました。  
マンズワイン・おしゃれデカンタ。いつも、あなたのおそばに。



ふたりでワインを **マンズワイン**

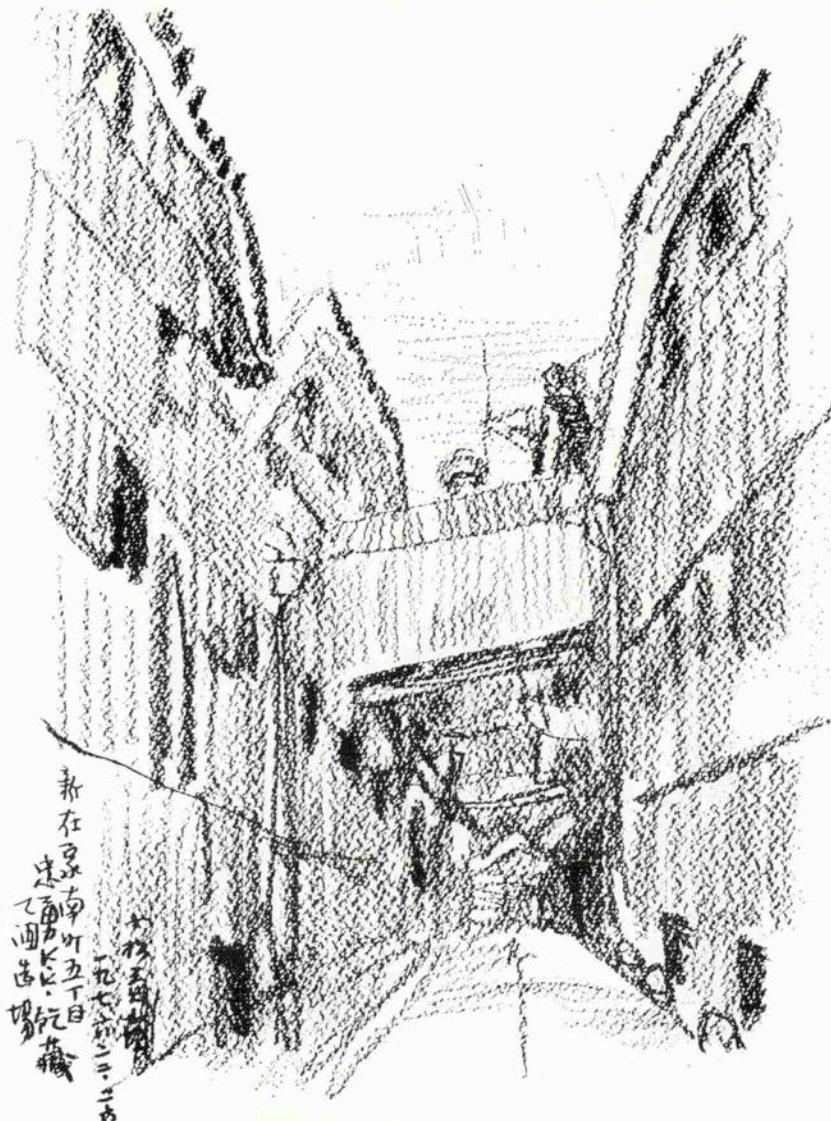


**アサヒビール**

水滴に曇る窓  
手のグラス。

# 酒源郷の散策

文・林田重五郎  
絵・小松益喜



新在東京南叶五十日  
走而かくに、元藏  
て酒源道場  
大根五郎  
一九七〇年二月二日



六甲おろしの厳しさは灘で育つ  
たものでないとわからない。

「六甲おろし吹き荒れて、チヌ  
の浦わに波さわぎ：」

と歌だけは元気にうたつたもの  
の、冬場の軍事教練に小銃を持つ  
手がかじかんで、涙ぐむ目を六甲  
おろしが凍らせる。学校の規則で  
オーバーが着られなかつた少年時  
代の記憶である。

その六甲おろしが天下の灘の生  
一本を産み出す大要因であること  
を知つたのはずっと後年である。

いま灘五郷では、側を歩いてさ  
え香り高い酒蔵が、日一日とビル  
ディング様式の巨大な四季醸造蔵  
に替わつてゆく。今にして桃源郷  
を訪ねずんば、近年のうちに工  
場群になつてしまふのではない  
か。ちょうど山中の異人館が姿を  
消してゆくように、酒蔵も見られ  
なくなる。

そこで出かけた“酒源郷”訪問、  
小松喜画伯のおともをする。そ  
の日も、きびしい六甲おろしが吹  
き抜けてゆく日だった。

まず西郷、いまの町名でゆくと  
灘区新在家である。忠勇さんの乾  
蔵が見える小道、小松さんが三脚  
に腰を下ろして写生を始めたられ

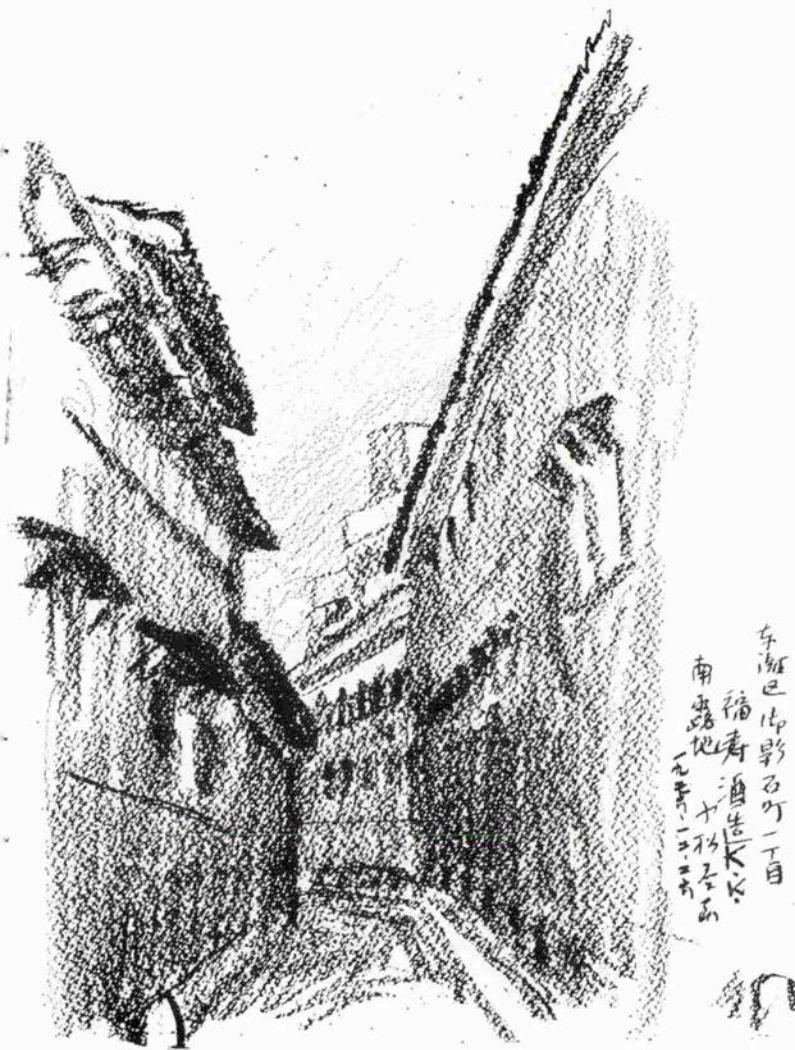
る。五十年の長い年期のはいったスキの全くない写生姿である。六甲おろしも、その板についた姿には敬意を表して避けて通っているようを見えるほど、風の中でビクともされない。

道のかたわらに、一枚板の腰掛けが置いてある。そのまん中が線刻してあって、将棋盤になっている。蔵人たちが腰掛けにまたがって相対し、まわりを応援する杜氏たちが囁んでいた有様が浮んで来る。東西に長い蔵の北側には、縦に三段に窓がついている。三階建てと思われる。

東西の側面はもう一段窓がふえる、棟に近いところは四階建なのである。焼板べいのこの窓が、六甲おろしを蔵の中へ導き入れる大切な招待路である。

複雑な酒造の方法を簡単に文字で現わすのは、むずかしいが、六

東海巴御影石町一丁目  
福壽酒造  
南端地  
元町、二番町



甲おろしの重要性を説明するため  
に並べて見ると

新日本酒  
四丁目  
小峰屋  
五穀  
一月三日



①コウジ：むし米にモヤシ屋から買つて来た種コウジをまぜて作る。

②モト：冷水にコウジと冷やし  
たむし米を入れ、ねりつぶし、イ  
ーストを培養して作る。

③モロミ：②のモトに①のコウ  
ジと水とむし米とを三回に分けて  
加える。①が米のデンプンを糖分  
にし、②がこの糖分を酒に醸酵さ  
せる。

完了すると③をしぼり、浄化し  
て、低温殺菌の火入れをし熟成さ  
せる。

米が大事、水が大事、そしてな  
によりも気温が大事なことが、こ  
の工程を見るとよくわかる。つい  
近年まで「暖冬で酒造界は大困ま  
り、蔵で氷を大量に買っている」  
などの新聞記事が出たものだが、  
酒造適温を保つためには、六甲お  
ろしと窓とが大切なポイントであ  
る。

この風に、米は播州米、水は西  
宮の宮水、そして経験豊かな丹波  
杜氏の腕によって日本一の美酒が  
生まれて來たのである。

いまはコンクリート造りのビル  
の密室で、冬の寒さを人造してい

る。現実には秋冬春と四季酒造が多いが、理論上は夏も酒造可能の四季藏と呼ばれる「酒造工場」時代に移りつつあるわけ。

時代を感じさせる酒蔵と窓に見入っているうちに、小松さんのデッサンは一枚目が見事にでき上った。

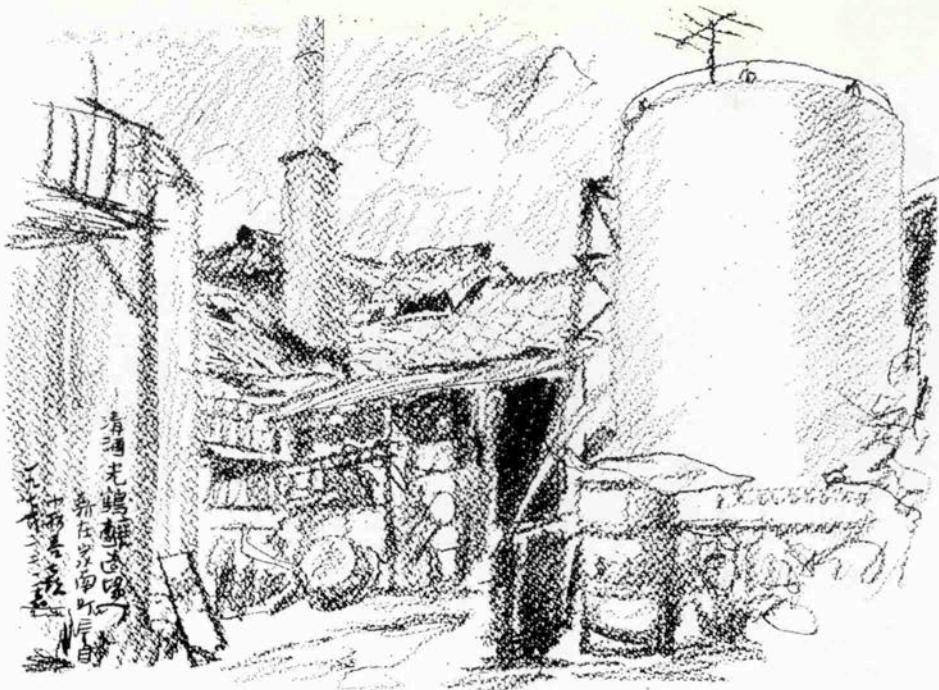
「次はここがいい」

同じく忠勇さんの大西蔵である。その次は近くの若宮八幡宮、酒蔵群の中の森が目立つ。古い神社で巨木ぞろい、そして西郷のお宮らしく石垣も石灯籠も、昔の酒造家の名が刻まれている。

神社の前を東へ進む。道に乗用車が見える。銘酒「光鶴」の岸本酒造専務岸本晃一さんの車である。神戸青年会議所特別会員、日本JC兵庫ブロック文化問題委員長会議顧問、小松さんとは旅行先のモスクワでのお知合いである。

岸本専務に酒蔵の中へ案内される。由緒を語る古い酒蔵の建物であるが、なかは新しい器具が多く、アルミの輝きが美しい。灘の酒の芳香がまわりいっぱいに漂つ。蔵の奥では、酒のしぶられているきれいな音がチヨロチヨロと聞えた。





専務さんみずから、きき酒用の茶  
ワンで、したたり落ちる黄金の泉  
をくんで下さる。口にふくむと、  
すばらしい香味、六甲おろしで冷  
え切った体が、頭から足先までピ  
ンと活気づく。小松さんと顔を見  
合わせ、全く予想もしなかった感  
激にひたる。

「こちらの方は甘口…」

もう一つの口から、しぶられた  
ばかりのお酒を新しく汲んで下さ  
る。なるほど舌ざわりはあまい。

「古い酒蔵と四季蔵で作った酒  
は異なるとの説と同じとの説があり  
ますが…」

「当然ちがいますよ。米も年に  
一度しかとれない。酒も年一度の  
がうまい…」

思わぬごちそうになつて、さら  
に東へ、御影石町一丁目福寿酒造  
の前へ出る。その南側の、両側が  
古い酒蔵の露地のすばらしいこ  
と。小松さん、感嘆しながら鉛筆  
を走らせる。鉛筆の音が高く低く  
まことに名人芸である。「戦時中  
室生寺に疎開していたとき、夜中  
の月下でないと写生ができず、そ  
のとき覚えた鉛筆さばきだ」との  
こと。藏の感じが見る見る画用紙  
に浮かび出る。「窓のワクの白ぬ  
りが引き立たせるね」小松さんの



菊正酒造記念館  
小松豊吉  
1976.12.26

声。酒蔵の角には必ずといってよいほど石が置いてある。「これは蔵を守るための、酒造家の昔からの知恵だよ」生家が高知の酒造家である小松さんの解説。

さらに東へ、住吉川西岸の菊正宗酒造記念館へゆく。この建物は江戸時代初期の三百十七年昔にできた千石蔵である。はじめ内蔵、のち本店蔵と改名されたが、二十九九年間実動し、二十数万石の菊正を作った蔵である。昭和三十五年現在のところへ移築された。

「いま菊正の四季醸造蔵はフル操業すると年産十万石といわれている。つまりこの千石蔵の百蔵分ですな」なるほど、エライ時代になつたものではある。館の内外には昔のタルや用具が飾られている。大きなタルの中を見るための台は「うどんや」と呼ぶ。移動させるのに江戸期の夜なきうどんや同様、棒をさしてこんでかついだところから来る名だとある。暖気(だき)ダルなどタルの種類の多さにビックリする。

魚崎郷を回わって、にしむら珈琲北野店へ—ここで「宮水」のコーヒなどいただいた。酒蔵回わりのしめくくりにふさわしい味だった。

山あいのせせらぎのほとり  
霧にもやう酒蔵に  
丹波の里の米と水 それに  
加えて丹波杜氏の入魂の技  
風土と伝統と手づくりから  
生まれた美酒(小鼓)を  
丹波焼の雅陶にこめて  
おとどけいたします。



## 丹波の地酒 美 酒 小鼓

水上郡市島町中竹田1171  
☎ 07958 (6) 0331 (代)

丹波の味、「マロンリキュール」は若い女性のために。然爛がうれしい季節になりましたが、美酒小鼓は通のために。どちらも風趣ある立杭焼の徳利入りもあり、お土産に最適です。神戸ではそごう百貨店で発売中です。

酒徒なれば  
だれもが選ぶ  
灘の生一本  
大黒正宗



清酒 大黒正宗

安福又四郎商店醸

贈られてうれしい、よいお酒。

清酒  
**世界長**

神戸・東灘  
世界長酒造株式会社